

令和 2 年度（2020 年度）第 1 回地域社会連携本部会議議事要旨

開催日時：令和 2 年 11 月 26 日（木）16：00～17：10（オンライン会議）

出席者

須藤 剛志（世田谷区スポーツ推進部 スポーツ推進課長）
守屋 喜代司（横浜市市民局 スポーツ振興部 スポーツ振興課長）
小野 道子（公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団 事務局管理課長）
森田 尚隆（公益財団法人横浜市スポーツ協会 地域スポーツ振興部長）
中川 謙（横浜市青葉区 総務部 区政推進課長）
荻 浩三（社会貢献推進機構 教育開発担当）
白旗 和也（スポーツプロモーション・オフィス オフィスディレクター）

欠席（届）

佐野 昌行（社会貢献推進機構 連携推進担当）
中里 浩一（社会貢献推進機構 研究開発担当）

事務局

石井 砂織（スポーツプロモーション・オフィス アシスタントオフィスディレクター）
塚田 直彦（スポーツプロモーション・オフィス 主任）
岡田 順治（スポーツプロモーション・オフィス スタッフ）

開会に先立ち、石井アシスタントオフィスディレクターから出席者の紹介があり、「地域社会連携本部規則第 5 条」に基づき、過半数の出席をもって本会の成立が宣言された。

はじめに、白旗オフィスディレクターから挨拶があり、当会議の開催時期が遅れたことについての深謝と経緯説明がなされた。その後、「地域社会連携本部規則第 4 条」により互選された荻浩三議長により議事が進行された。

議 事

1. 報告事項

(1) 2019 年度事業報告

白旗和也オフィスディレクターから、配付資料（資料 1）に基づき、2019 年（1 月～12 月）に行った事業について、以下のとおり報告があった。

- ①公開講座：10 講座計 43 回実施 参加者延べ 1489 名
- ②体力測定：世田谷・健志台の両キャンパスで実施 参加者 944 名。
- ③日体大スポーツフェスタ：1 月（健志台）149 名の参加、11 月（世田谷）185 名の参加
- ④防災訓練：（健志台）台風のため中止（世田谷）寮生が地域合同総合消防訓練に参加。
- ⑤美化活動：学友会や寮を中心とした地域の美化活動 10 回実施
- ⑥ボランティア活動：イベント等での演技披露や運営補助、学校等での学習支援、行事引率、他、体育スポーツ活動への支援を中心に派遣

(2) 2019 年自己点検・評価報告及び外部評価委員会報告について

白旗和也オフィスディレクターから、2019 年度の自己点検・評価及び外部評価結果について以下のとおり説明、報告があった。

2019 年度の自己点検・自己評価報告書（資料 2）については、事業報告書（資料 1）等をもとに 2019 年度に行った社会貢献推進事業について点検・評価したものであり、また、それを

外部評価委員会によって審査・評価したものが外部評価報告書（資料 3）である旨説明があった。

外部評価委員会も 3 月に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、会議を開催出来ず、紙面での確認となってしまった。戴いた意見を踏まえ、今年度の事業方針・計画を立てさせていただいた。

（3）令和 2 年度（2020）上半期事業報告及び下半期事業計画における現状報告

白旗オフィスディレクターから、配布資料（資料 4、資料 5）に基づき、令和 2 年（2020 年）1 月から現在までに本学が取り組んだ各種活動について以下のとおり報告があった。

① ボランティア派遣について

1 月～2 月までは通常通りの派遣が実施されていたが、3 月以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて中断された。6 月に入り「本学学生・教職員のボランティア活動参加に関するガイドライン」を作成し、社会貢献推進事業（ボランティア活動）の派遣先として本学が認める基準を満たしたものについては派遣を始めたが、実際に派遣をしたものは数件程度であった。

また、地域のイベント等も軒並み中止となり派遣依頼もなかった。後学期には、受入不可や期間短縮となった教育実習の代替ボランティアとしての活動や、授業科目に設定されている「地域ボランティア実習」に関する派遣が若干ながら増加傾向にある。

② 公開講座等の大学独自イベントの実施について

「公開講座の実施に関するガイドライン」を作成し、これに基づき実施を検討したものの、参加対象者は高齢者も多く、また、測定なども接する場面が多いことから、やむを得ず全ての対面型公開講座を中止することとした。なお、オンライン形式に変更した講座「トレーニングのすすめ（11 月 8 日、12 月 6 日の 2 回開講）」は、この後 12 月も実施予定である。

また、イベントについて、「体力測定」は対面型の実施を避け、郵送でのアンケート実施と結果のフィードバックとした。その他「日体大スポーツフェスタ」「防災訓練」については関係各所と協議の結果、中止することとした。この他に今年度社会貢献推進機構が主催するイベントは計画していない。

2. 審議事項

（1）令和 2 年度（2020）事業方針・事業計画について

萩議長より、令和 2 年度（2020）事業方針・事業計画について提案があり、白旗オフィスディレクターから、配付資料（資料 6）に基づき、以下のとおり説明があった。

本来ならば 3 月の会議で決定するものであったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できないまま今日に至り、すでに作成した事業方針・事業計画をもとに進めてきている。

今年度の新たな計画としては、学内外への周知における共通認識の醸成に向けた取り組みの推進として、本機構の活動内容の周知及び参加者の拡大を図るため、スポーツプロモーション・オフィスを横浜・健志台キャンパス 9 号館に開設し、両キャンパスで窓口対応を可能とするものである。4 月から健志台の 9 号館事務室に専任職員 2 名を配置しており、現在のところはリモート授業によりキャンパス内に学生も少ない状況ではあるが、有意な設置となるよう努めていく。

今後の状況を踏まえ、感染拡大防止の対策をとりながら可能なものを実施していきたい。

審議の結果、令和 2 年度（2020 事業方針・事業計画は、原案どおり承認された。

（2）令和 3 年度（2021）事業方針・事業計画の策定について

萩議長から、令和 3 年度（2021）事業方針・事業計画の策定について提案、白旗オフィスデ

ィレクターから、事業方針としてはこれまでと変更はなく、事業計画は配付資料（資料 7）の通り、現時点では大枠としての推進事業を示し、詳細の計画については、今年度の自己点検・評価、外部評価を確認した上で、次年度の事業計画を立てていきたいとの説明があった。

審議の結果、令和 3 年度(2021)事業方針・事業計画の策定については原案どおり承認された。

(3) 令和 3 年度 (2021) 公開講座について (基本方針)

荻議長より、令和 3 年度 (2021) 公開講座について (基本方針) について提案、白旗オフィスディレクターから配付資料 (資料 8) に基づき以下のとおり説明があった。

次年度度の公開講座を募集するにあたっては、まず基本方針を定めた上で社会貢献活動委員会にて募集要項を作成し、公募していきたい。

内容としては、主に地域住民を対象とした体育・スポーツの普及発展、健康の保持増進等地域課題の解決に資する企画、オリンピック・パラリンピックに関係する企画も募集する。特に、実施にあたっては新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、十分な対策をして行うものとし、対面での実施が難しい場合のオンライン講座など Web 利用を含めた実施方法も考えていきたい。

審議の結果、令和 3 年度(2021)公開講座の基本方針については、原案どおり承認された。

3. その他

荻議長の進行により、各委員からイベントの実施等を含め、主に体育・スポーツに係る事業の展開状況について情報交換がなされた。

・世田谷 246 ハーフマラソンは今回オンラインで実施した。また、11 月 28 日にボッチャ交流大会や、2 月には日体大パラアスリートに協力いただきパラスポーツ体験会を実施予定である。ボッチャなど用具を使うものの感染症対策としては、チーム毎に消毒セットを配付して対応してもらうこととしている。車イスを利用する場合は、タイヤと床の消毒を適宜行うこととしている。

・横浜市の各種スポーツ関連施設やイベントも徐々に再開してきており、横浜武道館も完成し 7 月に開館、式典も実施した。横浜マラソンはオンラインで実施することとなった。

また、横浜スタジアムではプロ野球公式戦で大規模イベントの人数制限緩和に向けた実証実験 (技術実証) が、横浜スタジアム、ディー・エヌ・エー、横浜 DeNA ベイスターズ、他、複数企業が横浜市と連携して実施した。東京 2020 オリンピックの競技会場となっており、実証結果をもとに感染防止対策についての知見提供も考え、実証にかかる結果は今後公表されるのではないかと思う。

都市ボランティアの研修も始めたが、オリンピックが 1 年延期したことによって、登録してくれていた学生が社会人になり、キャンセルなどが発生している問題もある。

・6 月から屋外施設での事業を再開している。10 月には世田谷区民スポーツまつりを「新しい生活様式」に従い無事実施することができた。感染症対策としては、入場時の検温をクリアした人はリストバンドを装着する等参加者の管理を行なった。抗菌シートを参加賞として配布しており、消毒や除菌に対する意識が向上するなど参加者の満足度も高かった。運営側としては、感染拡大予防で利用人数を絞る必要がある中、感染症対策費の増加など、財政面でも大きな課題が生じている。

・コロナの状況下においては障がい者対象の事業が難しい。マスクの着用はじめソーシャルディスタンスをとることなども障害の種類・程度によって対応が異なり、スポーツ活動支援については課題が多い。

・公開講座等は、対面形式とオンライン形式を状況に応じて使い分けている。全てオンラインが好ましいものの、初対面の参加者同士で、オンライン上において十分なコミュニケーションを図ることは難しい側面もある。そのため対面とオンラインの併用も含むハイブリット形式での実施としている。

・横浜市のスポーツ施設は6月初旬から再開し利用者数は9割まで回復してきているが、トレーニング室の利用は5割前後、利用者全体としても例年の半分程度である。スポーツ教室も8月から再開しているが、参加率は定員の5割程度である。これらの状況から、今後も積極的な教室実施を推進していくことは難しく、オンライン教室等の開講も検討している。また、ごく一部の利用者がマスク非着用の利用者との間でトラブルが生じるケースも見られる。

・11月の青葉区民まつり、区民マラソンなどほとんどのイベントが中止となり、区民の外に出る機会が減っている。マラソンについては試行でリモートにて実施する青葉チャリティーランを予定している。いつでもどこからでも参加できることから、外に出る機会を創出していきたいと考えている。

屋内でのイベント等の開催に関しても、ソーシャルディスタンスを確保しつつ、二方向の通気を確保することや、手指消毒の徹底を図った上で、徐々に開催を増やしていきたい。

また、青葉6大学連携特別講座はICTを利用したオンラインと、その講座を区役所に場所を設けリアルタイムで視聴できるようにするハイブリット形式で実施予定である。

○現在では街中でも「マスクを着けない方は受け付けない」との案内掲示を見かけることもあるが、スポーツする際の対応策や着用をお願いする方法についてどのようにされているか

・政府やスポーツ庁などの指針やガイドライン等で、いわゆる三密に当たらない屋外でソーシャルディスタンスが確保出来ている場合や、運動に支障がある場合には必ずしもマスクを着用するようにはなっていない。

・運動中は外して構わないが、それ以外は着けていただくこととしている。

・公園での運動時は着用をお願いしている。

・スポーツイベント実施時に「ネックゲーター」を参加賞で配布するなど普及・啓発活動にも取り組んでいる。

・スポーツイベント参加者には募集の段階で告知し理解を求めている。

・マスクの予備を準備し、忘れた来場者には配付するなど対応している。

・ソーシャルディスタンスの確保を徹底するよう努めている。

・運動強度の高いものはマスクを外しても良いとしている他、トレーニング室におけるランニングマシンの配置を変更することで、他の利用者の呼気が影響しないよう配慮している。

・ガイドラインに基づき、ソーシャルディスタンスをとるよう伝えている。

マスク着用の有無については、相当ストレスに感じている利用者があることは否めない。

○自治会活動が積極的に行われる地域では、現段階として区民や市民の活動に運動部（団体）等を派遣することについては、どのように感じているか率直に意見をお聞かせ願いたい。

・各企画や自治会活動への参加に関して、感染症対策に配慮し、行動履歴が追えるよう参加者リストの準備、事前に検温対策をするなどすれば、イベント毎の条件にもよるが、大きな問題は無いと考えている。可能な範囲で今後も積極的な協力をお願いしたい。

4.連絡事項

石井アシスタントオフィスディレクターから、次回の会議について連絡があった。

次年度事業方針・事業計画の決定などを議題として、翌年3月から4月を目途に開催する。開催にあたっては、感染拡大状況、社会情勢を鑑みながら対面もしくは今回同様リモートによる形式で実施させていただくことが確認された。改めてスポーツプロモーション・オフィスより日程調整の連絡することとなる。

以上

【配付資料】

- 資料1 2019年度事業報告書
- 資料2 2019年自己点検評価・報告書
- 資料3 評価報告書（2019）
- 資料4 令和2年度（2020）社会貢献事業報告書（1月～現在）
- 資料5 令和2年度（2020）イベント・公開講座開催状況一覧
- 資料6 令和2年度（2020）事業方針・事業計画
- 資料7 令和3年度（2021）事業方針・事業計画策定について
- 資料8 令和3年度（2021）日本体育大学公開講座募集の基本方針